

平成25年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：平成 25 年 6 月 28 日（金） 11：00～16：00

会 場：AP 品川 F+G

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、濱田吉則（理事・会長）前田貢作（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、田口智章、蕨澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、小室広昭（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計副委員長）田中 拓、佐藤正人（以上庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 仁尾理事長より、理事長就任にあたっての挨拶があった。
2. 新理事会発足にあたり、仁尾理事長より、新庶務委員として田中 拓委員（東北大学）および佐藤正人委員（北野病院）が提案され、承認された。
また、新理事、新監事の紹介がなされ、それぞれ挨拶があった。
3. 第2回定例理事会の議事録署名人は、北川博昭理事、米倉竹夫理事とした。
4. 平成24年度第7回および平成25年度第1回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

5. 報告事項

1) 第50回学術集会報告（岩中前会長）

岩中前会長より以下の報告があり、了承された。なお、会計について後日報告予定である。

5月29日・・・理事会、評議員会、50周年記念式典、50周年記念祝賀会・拡大プログラム委員会など

5月30日・・・記念座談会、口演・ポスター、会長招宴など

5月31日・・・口演・ポスター、International Session、会員懇親会など

6月1日・・・口演・ポスター、International Session など

参加者

	有料	招待	研修医	学生	合計
5月29日	311 (0)	74 (23)	0	1 (0)	386 (23)
5月30日	366 (18)	7 (1)	12	47 (5)	432 (24)
5月31日	194 (1)	5 (2)	9	15 (0)	223 (33)
6月1日	104 ((0)	1 (0)	6	8 (0)	119 (0)
合計	975 (19)	87 (26))	27	71 (5)	1160 (50)

() 内は海外からの参加者

応募演題数：684 題

最終演題数：695 題（当日取り下げ分を除く）

内訳：オーラル 224 題

記念座談会、会長講演、理事長講演、招待講演、教育講演：9 題

シンポジウム、パネル、ワークショップ、国際パネル他：215 題

ポスター 471 題

※国際関係（参加者の国籍：27 か国）

国際パネルディスカッション：27 題 国際セッション：14 題

国際ポスターセッション：48 題

スポンサーセミナー：14 セッション、17 演題

学会事業参加者

1. 卒後教育セミナー：119 名（事前申込 85 名+当日申込 36 名-キャンセル 2 名）
2. 内視鏡手術セミナー：119 名（事前申込 88 名+当日申込 37 名-キャンセル 6 名）
3. 倫理安全講習会：約 90 名

2) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 厚生労働省医薬食品局安全対策課からの冊子「医薬品・医療機器等安全性情報 No.301～302」を受領した。
- (2) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.43No.6」を受領した。
- (3) 日本輸血・細胞治療学会からの通信文「理事長交代の挨拶」を受領した。
- (4) 日本呼吸器外科学会からの通信文「理事長交代の挨拶」を受領した。
- (5) 日本医師会からの通信文「医療事故調査制度の実現に向けた具体的方策について」について仁尾理事長より資料につき報告された。なお、葦澤監事より日本医療安全調査機構から届いている「診療行為に関連した調査分析モデル事業」における本会担当者については、倫理安全管理委員会の委員構成が決定した後に、検討することが申し添えられた。
- (6) 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会について、田口監事より資料に基づいて、報告があり、了承された。

6. 審議事項

1) 第51回学術集会について（濱田会長）

濱田会長より資料に基づき、プログラム案が提案され、承認された。

テーマ『小さな命への新たなる一歩』“Next First Step for Sick Children”

日程 理事会・評議員会 2014年5月7日（水）

学術集会 2014年5月8日（木）から10日（土）

会場 大阪国際会議場 グランキューブ大阪（大阪市北区中之島）

2) 第 52 回学術集会について (前田副会長)

前田副会長より、ご挨拶があり、以下の提案があり承認された。

日程	理事会・評議員会	2015年5月31日 (日)
	学術集会	2015年6月1日 (月) から3日 (水)
会場	神戸国際会議場	

3) 庶務委員会 (菱木庶務委員長)

菱木庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

2013年5月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,858名 (うち海外2名)、評議員 317名、名誉会員 54名 (うち海外8名)、特別会員 68名 (うち海外1名) の合計 2,297名である。

4) ワークライフバランス検討委員会設置の件 (仁尾理事長)

仁尾理事長および窪田理事より、2012年度に新設した特別委員会であるワークライフバランス検討委員会を常設委員会とすることが提案され、承認された。

5) トランジション検討委員会設置の件 (仁尾理事長)

仁尾理事長より、新たな特別委員会として、トランジション検討委員会を設置することが提案され、承認された。

6) 50周年記念事業委員会設置の件 (仁尾理事長)

仁尾理事長より、特別委員会として設置していた 50周年記念準備委員会は、式典等の事業が終了したため同様に終了とするが、記念誌発行および記念事業に関する会計の取扱いについて担当する特別委員会として 50周年記念事業委員会を設置することが提案され、承認された。

7) 各種委員会の担当理事及び委員長について (仁尾理事長)

仁尾理事長より、各種委員会担当理事、委員長について案が提出され、質疑応答の後、承認された。

各委員長と相談の上、委員の推薦をするよう各担当理事に要請があった。

なお、委員会設置に関する理事会内規 第5条「委員 (委員長を含む) は2年間で1期として、引き続き同じ委員会で2期を超える再任または再委嘱はおこなわないものとする。」の原則的解釈について、委員と委員長の任期は別に扱うかどうか (委員を2期勤めた後に委員長に就任できるかどうか)、過去資料を調査の上、次回理事会にて審議することとなった。ただし、本年度の委員選定に関しては、委員と委員長の任期を別に扱わず、委員会に2期 (4年間) 所属した場合は、任期満了とすることを原則とすることが承認された。

加えて、利益相反委員会に関する内規にその委員構成について、「担当理事→倫理・安全管理委員会の担当理事、委員長→倫理・安全管理委員会委員長、委員→倫理・安全管理委員会から一名、機関誌委員会から委員長とその他一名、学術・先進医療検討委員会から委員長とその他一名」とあるが、この規定は利益相反委員会が倫理・安全管理委員会の中の小委員会として設置されていた当時の規定であり、常設委員会となった現在は当該規定を削除し、独立した委員会として取扱うことが提案され、承認された。

PSI Publication Committee は機関誌委員会の中に設置されたものであり、担当理事は機関誌委員会担当理事とすることが確認された。また、構成メンバーについては、その業務の特殊性により、委員会設置に関する理事会内規に関わらず、メンバーを選任できるものとすることが提案され、承認された。

悪性腫瘍委員会地区センター幹事については、名称を「悪性腫瘍登録事業 地区センター幹事」とすることが確認された。

8) 内部委員会および対外委員のメンバーについて（仁尾理事長）

仁尾理事長より、秋季シンポジウム委員会、秋季シンポジウム小委員会、専門医制度連絡会、専門医制度庶務委員会および対外委員のメンバーの提案がなされ、質疑応答の後、承認された。

9) 総合調整委員会について（仁尾理事長）

仁尾理事長より、総合調整委員会への以下の審議依頼事項の説明がなされ、質疑応答の後、承認された。

1. 卒前教育について
2. 小児外科専門医の適正配置と専門医制度のあり方について
3. 小児外科をとりまく専門医制度への関わり方について
4. トランジションについて
5. 学術集会の在り方について
6. 秋季シンポジウムのあり方について
7. 本学会の国際化、国際貢献について

なお、黒田副理事長より総合調整委員会の開催日程について、提案があり、以下の通りとなった。

総合調整委員会

第1回 平成25年9月4日（水）

第2回 平成25年11月14日（木）

第3回 平成26年1月14日（火）

第4回 平成26年3月11日（火）

10) 機関誌委員会報告

北川担当理事より、資料に基づき、以下の通り提案され、承認された。

(1) 50周年記念誌

記念誌発行業務に関して、これまで業務担当であった2011・2012の委員会メンバーが今後も関われるよう、50周年記念誌業務に関しては引き続き担当できるようにしたい旨、提案され、承認された。なお、50周年記念事業である座談会等の原稿については、テープ起こしを専門業者に依頼することが提案され、承認された。

(2) 二重投稿，二次出版

投稿規定1の「31巻5号」、投稿規定12の「42巻5号」はあまりにも古いので、最近の医学論文作成倫理に則って改訂する予定である。

(3) 投稿規定5の改訂（「小児外科疾患用語集」（日本小児外科学会編，金原出版，1994）は入手困難である）

(4) 投稿論文への動画掲載について

(5) 優秀論文審査方法の見直しについて

11) 保険診療委員会報告

窪田担当理事より資料に基づき、小児外科領域における20mL注射剤の必要性について、厚生労働省医政局長宛の要望書案が提案され、審議の結果、承認された。

12) 小児救急検討委員会報告

松藤担当理事より、資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

(1) 第3回小児救急セミナー

平成25年5月30日 18:30～19:30 京王プラザホテル 第2会場（コンコードC）

主題： 肝外傷 参加者 141名

なお、第4回の開催としては、第29回秋季シンポとは主題が重なっており、また時間を取る事が難しいため、第29回秋季シンポジウム時の開催はしない。次回は第51回小児外科学会学術集会での開催を準備したい。

(2) PALS講習会

第50回小児外科学会学術集会での開催は参加希望者が9名で予定人数に達しなかったため中止した。今後の開催について検討が必要である。

(3) 「外科系小児救急患者受け入れ状況」のホームページ更新について

2012年度までは年次報告書提出時に同時に各施設の受け入れ状況を訊いて情報を得ていた。しかし年次報告はNCDとなったため本年度は出来ていないので今後の更新方法については、事務局より各施設の代表責任者へメールにて問合せをすることとなった。

(4) 災害対策への取り組みについて

日本小児救急医学会災害医療委員会は、2012年12月20日に「東日本大震災小児医療復興新生事務局」を創設し、被災3県の小児救急医療基幹病院への支援医公募事業を開始し、ホームページを立ち上げたので、当該ページへ本学会ホームページにリンクを掲

載することが提案され、承認された。なお、今後も災害対策への取り組みについて、小児救急検討委員会委員が決まり次第、他学会との連携も含め、検討を進めていく。

13) ワークライフバランス検討委員会報告

窪田担当理事より、資料に基づき、ワークライフバランスや男女共同参画、キャリア継続についての啓蒙活動として第29回秋季シンポジウムの際に講演会(1時間程度)を開催したい旨、提案され、承認された。

14) その他

(1) 記念式典・祝賀会写真の学会ホームページ掲載について

仁尾理事長より、現在第50回学術集会へ掲載している記念式典・祝賀会の写真について、学会のホームページにも掲載することが提案され、承認された。

(2) 駿河先生ご提供の動画の学会ホームページ掲載について

仁尾理事長より、記念式典の前に式典会場で放映した駿河先生ご提供の動画について、学会のホームページへ掲載することが提案され、以下方法にて掲載することが承認された。

- ・動画の中にある「エーザイ」の広告は削除する。
- ・著作権については、全て駿河先生が保有しており、掲載については駿河先生の承諾をいただいている。
- ・掲載場所としては、日本語動画は手術動画配信サイト(マイメド)に掲載し、会員だけが閲覧できるようにする。
- ・なお、英語動画はホームページに掲載せずに、海外の先生方へ50周年記念誌と一緒に座談会・記念式典等の動画とともにDVDに焼き付けて、贈呈する等の方法を検討することとする。

(3) UICC-Japan(国際対がん連合)小児がん委員会について

仁尾理事長より、資料に基づき、UICC-Japan(国際対がん連合)小児がん委員会委員長である中川原章先生(千葉県がんセンター病院長)より、理事長宛に同委員会の委員への就任依頼が届いたことが報告され、理事長が委員として就任することが承認された。

(4) 日本周産期・新生児医学会小児外科認定医制度(案)について

仁尾理事長より、資料に基づき、日本周産期・新生児医学会が進めている認定新生児外科医についての申請条件案が報告され、以下の部分を削除する依頼を提案することが承認された。なお、名称としても「新生児認定外科医」とすることも併せて提案することが承認された。

- ・日本外科専門医であること。
- ・以下に定める新生児外科症例の手術経験を有すること

新生児外科症例に関し、診療チームの一員として行った全身麻酔下手術（周産期新生児専門医研修施設の症例に限る）を30例以上経験していること。診療チームの一員とは、診断や治療の方針決定に参加し、治療中に治療指示や病状説明を行った者をいう。

30例中、執刀医または指導助手として食道閉鎖、十二指腸閉鎖、小腸閉鎖、消化管穿孔、鎖肛、横隔膜ヘルニア、腹壁異常（臍帯ヘルニアまたは腹壁破裂）の手術経験を各1例以上有すること。

・臨床経験記録（所定の様式）

経験症例30例の一覧とそのうちの主要10例の個別症例票を添えて提出すること。個別調査票は、手術記事、手術時間、術後合併症、長期合併症、現在の生存（予後）を記載すること。

(5) WOFAPSに関する問合せの件について

仁尾理事長および北川理事より、資料に基づき、WOFAPSの理事会が日本小児外科学会の評議員会と同時間帯に設定されたことについて、WOFAPSが不満を表明していることが報告され、状況の説明がなされた。

質疑応答の後、本件については、状況詳細を説明し、プログラム設定の段階でWOFAPS側とのコミュニケーション不足があったことについては、謝罪をすることとなった。

(6) アンケート調査に関する倫理審査の実施方法について

濱田会長より、臨床研究に関するアンケート調査について、アンケート申請者の自施設（または親施設）に設置されている倫理委員会に倫理審査を諮ることを原則としているが、アンケート申請者の自施設に当該委員会の設置が無い場合、学会の中に設置されている倫理委員会（あるいは審査用に委員会を新設）にて代理審査ができるかどうか、との提案がなされた。

審議の結果、本件については特定非営利活動法人という法人格である本学会の内部に設置した委員会で、臨床研究に関する倫理審査をすることが利益相反とならないか、日本外科学会の顧問弁護士の意見を確認し、その上で検討していくこととされた。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____